

東洋・日本美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋・日本美術史概論	日本絵画史	2	杉本 欣久	3	金	4	1
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論— 彫刻の主題と表現	2	長岡 龍作	4	金	4	2
東洋・日本美術史基礎講読	日本近世絵画資料講 読	2	杉本 欣久	3	金	5	3
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文 研究	2	長岡 龍作	4	金	5	4
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作.杉本 欣久	3	火	3・4	5
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作.杉本 欣久	4	火	3・4	6
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	5	水	3	7
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	5	木	2	9
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	6	水	3	10
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	6	木	2	11
東洋・日本美術史各論	日本中世の天皇と美術	2	高岸 輝	集中(6)			12
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長岡 龍作	5	月	2	13
東洋・日本美術史講読	美術資料を読む	2	杉本 欣久	6	月	2	14
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡 龍作.杉本 欣久	5	火	2	15
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡 龍作.杉本 欣久	6	火	2	16

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：杉本 欣久 (准教授)

講義コード：LB35401, **科目ナンバリング：**LHM-ART201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本絵画史

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Painting History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 日本人と絵画
- 3 回目 花鳥風月・四季四時
- 4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころ
- 5 回目 古代の絵画
- 6 回目 聖徳太子信仰と美術
- 7 回目 鎮護国家の美術
- 8 回目 浄土教と法華経の美術
- 9 回目 絵巻物 1
- 10 回目 絵巻物 2
- 11 回目 肖像画
- 12 回目 絵所預とやまと絵の系譜
- 13 回目 吉祥画と蓬莱山信仰
- 14 回目 禅の興隆と水墨画
- 15 回目 東洋の画題研究「魚」

6. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：なし初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB45403, **科目ナンバリング：**LHM-ART201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現

2. Course Title (授業題目)：

Basic study of Japanese art history—Subjects of sculpture and Representation

3. 授業の目的と概要：

古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。
- (2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。
- (3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イン트로ダクション—仏像とは何か？
2. 仏像と仏舎利
3. 釈迦如来への信仰と表現
4. 亡き人のための造像
5. 阿弥陀如来への信仰と表現
6. 薬師如来への信仰と表現
7. 弥勒菩薩への信仰と表現
8. 観音菩薩への信仰と表現
9. 霊験と仏像
10. 天の役割と表現
11. 地藏菩薩への信仰と表現
12. 神像の出現
13. 彫像がみちびく世界観
14. 肖像の表現と役割
15. 試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること。また興味ある作品に触れたときは、自ら出かけ実物を見ることに努めること。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：杉本 欣久（准教授）

講義コード：LB35501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近世絵画資料講読

2. Course Title (授業題目)：

Trainings to read documents related to the paintings in the Edo era

3. 授業の目的と概要：

日本近世絵画史における基礎資料の『都林泉名勝図会』と『画乗要略』を通読し、研究に必要な「変体がな」と「漢文」の基礎を学ぶ。さらに寺社の縁起や画家の伝記に関して、調査方法を獲得する。

4. 学習の到達目標：

美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」と「漢文」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、配布する資料を各自が 45 分間で読解し、残りの 45 分間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 『都林泉名勝図会』を読む

9 回～15 回 『画乗要略』を読む

6. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを読解し、その習熟度によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

9. その他：なし単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB45501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

東洋・日本美術史論文研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on the papers of Oriental and Japanese art history

3. 授業の目的と概要：

東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジュメとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。

4. 学習の到達目標：

東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakShIONー東洋・日本美術史研究の方法論
- 2.パイロツト発表
- 3.パイロツト発表
- 4.発表準備
- 5.発表準備
- 6.発表準備
- 7.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 8.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 9.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 10.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 11.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 12.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 13.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 14.東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
- 15.総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。

8. 授業時間外学習：

参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。また発表後は、授業での討論を踏まえ、不足した内容を補うよう努めること。
Participants should carefully read the paper in advance. And, after the presentation, student is required to examine the missing content based on discussions in the class.

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB32307, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目)：

Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 写真資料の複写
2. 美術作品についての発表
3. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
4. 展示についての考え方と実践

4. 学習の到達目標：

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション
2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践
3. 写真資料の複写の方法と実践
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 美術作品についての口頭発表と講評
8. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 1
9. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 2
10. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 3
11. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 4
12. 博物館展示の考え方と実践 1
13. 博物館展示の考え方と実践 2
14. 博物館展示の考え方と実践 3
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

7. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

8. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

9. その他：なし 3・4 セメの東洋・日本美術史基礎実習（長岡・杉本）は連続履修すること。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB42307, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目)：

Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品を理解するための文字資料の読解
2. 美術作品の光学的調査の理論と実践
3. コンピュータを利用したプレゼンテーションの方法と実践
4. 博物館実習

4. 学習の到達目標：

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 美術作品を理解するための文字資料の読解 1
3. 美術作品を理解するための文字資料の読解 2
4. 美術作品の光学的調査の理論と実践 1
5. 美術作品の光学的調査の理論と実践 2
6. 美術作品の光学的調査の理論と実践 3
7. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 1
8. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 2
9. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 3
10. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 4
11. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 5
12. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 6
13. 展示の見学
14. 博物館実習
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

7. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

8. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

9. その他：なし 3・4 セメの東洋・日本美術史基礎実習（長岡・杉本）は連続履修すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：杉本 欣久 (准教授)

講義コード：LB53302, **科目ナンバリング：**LHM-ART301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 狩野派の系譜(室町から桃山)
- 3 回目 狩野派の系譜(江戸狩野と英派)
- 4 回目 京都の町絵師(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 5 回目 尾形光琳と乾山
- 6 回目 日本刀の精神
- 7 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 8 回目 8 代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 9 回目 対外交渉と長崎派
- 10 回目 沈南蘋と南蘋派
- 11 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 12 回目 池大雅と高田敬輔の系譜
- 13 回目 雪舟流 1 一雲谷派と矢野派一
- 14 回目 雪舟流 2 一長谷川派と江戸の雪舟流一
- 15 回目 補筆・改変・贋造

6. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、

あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくとい。

9. その他：なし初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB54204, **科目ナンバリング：**LHM-ART301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、東アジアの宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、舍利信仰の広がりや美術の様相を見た後、東アジアの各時代の美術を取り上げ、特に世界観との関わりからその意味と表現を探っていく。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と美術の関係を理解する。
- (2) 美術に投影された世界観を理解する。
- (3) 表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり 1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり 2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり 3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 舍利信仰と美術 1
6. 舍利信仰と美術 2
7. 舍利信仰と美術 3
8. 中国南北朝時代の世界観と造形 1
9. 中国南北朝時代の世界観と造形 2
10. 中国隋唐時代の世界観と造形 1
11. 中国隋唐時代の世界観と造形 2
12. 中国五代北宋の世界観と造形 1
13. 中国五代北宋の世界観と造形 2
14. 朝鮮半島三国時代の仏教美術
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像一祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる。また興味ある作品に触れたときは、自ら出かけ実物を見ることに努めること。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：杉本 欣久 (准教授)

講義コード：LB63307, **科目ナンバリング：**LHM-ART301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンスー江戸絵画の真贋
- 2 回目 浮世絵 1
- 3 回目 浮世絵 2
- 4 回目 武士の絵画 1 一鑑戒
- 5 回目 武士の絵画 2 一暢神
- 6 回目 円山応挙と円山派 1
- 7 回目 円山応挙と円山派 2
- 8 回目 与謝蕪村と呉春 一四条派の絵画
- 9 回目 大坂の絵画
- 10 回目 江戸時代の仏教と戒律復興
- 11 回目 江戸の絵画と谷文晁
- 12 回目 洋風画と司馬江漢・渡辺崋山
- 13 回目 好古家と考古学の黎明
- 14 回目 伊藤若冲 一ブームの功罪
- 15 回目 東北の画人

6. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：なし初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB64210, **科目ナンバリング：**LHM-ART301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、平安後期の造形と日本中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。さらに、空間と造形の関わりについても論じる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 平安時代後期の信仰と造形 1
3. 平安時代後期の信仰と造形 2
4. 平安時代後期の信仰と造形 3
5. 平安時代後期の信仰と造形 4
6. 日本中世の信仰と造形 1
7. 日本中世の信仰と造形 2
8. 日本中世の信仰と造形 3
9. 日本中世の信仰と造形 4
10. 空間と造形 1
11. 空間と造形 2
12. 空間と造形 3
13. 空間と造形 4
14. 空間と造形 5
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像一祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること。また興味ある作品に触れたときは、自ら出かけ実物を見ることに努めること。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：高岸 輝（非常勤講師）

講義コード：LB98823, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本中世の天皇と美術

2. Course Title (授業題目)：

Emperors in Medieval Japanese Art History

3. 授業の目的と概要：

日本中世美術史において、天皇の果たした役割や機能を考察する。中世における権力構造は、天皇を中心とする公家勢力と、幕府（鎌倉幕府、室町幕府）を頂点とする武家勢力の対抗や協調を基調とする。同時代の公家日記等を精読すると、天皇や将軍たちが直接制作に関与した絵画群、とりわけ絵巻の制作・鑑賞・貸借・奉納の実態が浮上する。伏見宮貞成親王の『看聞日記』、三条西実隆の『実隆公記』等を参照しつつ、後白河上皇による蓮華王院宝蔵の美術コレクションから、室町時代の足利将軍による絵巻制作にいたる流れを展望する。

4. 学習の到達目標：

中世に焦点を当て、日本美術を取り巻く社会と人の動きを、特にパトロン（天皇、将軍）、プロデューサー、絵師の活動を動的に理解することを目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の内容は以下の通り。

- (1) 古代絵画と天皇—正倉院から蓮華王院宝蔵へ
- (2) 後白河上皇と蓮華王院宝蔵
- (3) 花園天皇と後醍醐天皇
- (4) 高階隆兼の絵巻—「春日権現験記絵巻」「玄奘三蔵絵」
- (4) 合戦絵巻と東北地方
- (5) 『看聞日記』のなかの絵巻
- (6) 『看聞日記』の唐絵とやまと絵
- (7) 天皇と土佐派
- (8) 天皇・将軍と「融通念仏縁起絵巻」
- (9) 足利義教と「誉田宗廟縁起絵巻」
- (10) 後花園天皇と「天稚彦草紙絵巻」
- (11) 『実隆公記』のなかの絵巻
- (12) 『実隆公記』にみる絵画の制作過程
- (13) 土佐光信と「洛中洛外図屏風」の風景
- (14) 土佐光茂と中国憧憬の絵画
- (15) 戦国時代の南都絵所と「道成寺縁起絵巻」

6. 成績評価方法：

授業中の貢献（小課題、発言等）（50％）および期末のレポート（50％）による。

7. 教科書および参考書：

(参考書)

増記隆介・

皿井舞・佐々木守俊『天皇の美術史』第1巻（古代国家と仏教美術）（吉川弘文館、2018年）

伊藤大輔・加須屋誠

『天皇の美術史』第2巻（治天のまなざし、王朝美の再構築）（吉川弘文館、2017年）

高岸輝・黒田智『天皇の美術

史』第3巻（乱世の王権と美術戦略）（吉川弘文館、2017年）

8. 授業時間外学習：

集中講義開始前に、各回の講義に対応した読書課題を設定する。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB51211, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本美術資料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on art materials

3. 授業の目的と概要：

古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「信貴山縁起」上・中・下巻、「粉河寺縁起」一卷、「石山寺縁起」七巻、「頼焼阿弥陀縁起」上・下巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「一遍上人絵伝」十二巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝（華嚴縁起）」（元暁絵三巻・義湘絵四巻）、「慕帰絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「伴大納言絵詞」上（詞書欠）・中・下巻、「吉備大臣入唐絵巻」巻一～巻四（巻一詞書欠）、「玄奘三蔵絵」全十二巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. 学習の到達目標：

絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー授業の目的と方法論
2. パイロット発表
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
15. 総括と評価

6. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。また発表後は授業での討論を踏まえ調査の不足したことを補うこと。

9. その他：なし 5・6 セメの東洋日本美術史講読（長岡）は連続履修すること。

オフィスアワー：月・火・金の 13:00～17:00（但し、授業時間外）

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：杉本 欣久 (准教授)

講義コード：LB61206, **科目ナンバリング：**LHM-ART304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

美術資料を読む

2. Course Title (授業題目)：

Training to read information of Japanese art work

3. 授業の目的と概要：

「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めぐる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは、「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現するため、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を訓練するプログラムである数週ごとに方法が変わるが、いずれも学習者が発表する実践形式をとる。一方は類似する 2 作品のプリントを配布し、作品間に存在する相違点を観察して指摘していく。もう一方は、1 作品のプリントとその解説を配布し、内容に優先順位を踏まえたうえでの必要な情報が提示されているか、具体的な論拠は示されているかなど、その問題点や矛盾点を指摘していく。

4. 学習の到達目標：

美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報

5. 授業の内容・方法と進度予定：

予習で行なってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は視覚機器(プロジェクター)を使用し、講師が作品について論じる。

1 回目 ガイダンス

2 回～6 回 作品比較

7 回～10 回 解説批判

11 回～12 回 作品比較

13～15 回 受講生作成の作品比較発表

6. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを分析し、その質疑応答によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

人前で話すのが苦手であったり、めんどうであるといった人には不向きである。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：なし単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB52209, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on art works

3. 授業の目的と概要：

東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 発表準備
8. 発表準備
9. 作品研究発表ならびに討論
10. 作品研究発表ならびに討論
11. 作品研究発表ならびに討論
12. 作品研究発表ならびに討論
13. 作品研究発表ならびに討論
14. 作品研究発表ならびに討論
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009 年

8. 授業時間外学習：

発表する作品の選定に際しては、展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。発表には十分な時間を使い準備し、発表後は授業での討議を踏まえ不足した内容を補うように努める。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB62209, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on artworks

3. 授業の目的と概要：

東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 発表準備
8. 発表準備
9. 作品研究発表ならびに討論
10. 作品研究発表ならびに討論
11. 作品研究発表ならびに討論
12. 作品研究発表ならびに討論
13. 作品研究発表ならびに討論
14. 作品研究発表ならびに討論
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009 年

8. 授業時間外学習：

発表する作品の選定に際しては、展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。発表には十分な時間を使い準備し、発表後は授業での討議を踏まえ不足した内容を補うように努める。

9. その他：なし